

本市スポーツの推進に向けた課題等について

	市民アンケート結果	課題等
「すく」	<p>【スポーツ実施率】</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回以上のスポーツ実施率は、50.2% 中山間地域及び30～50歳代での実施率の低さが顕著 ウォーキングやランニング等の個人で行うことができるスポーツの実施率が高い チームスポーツ等、仲間づくりを伴うスポーツの実施率は低い 就業世代や子育て世代において、スポーツができなかった理由として、「仕事・家事」「子育て」「費用」と回答する方が多い 若年層において、スポーツができなかった理由として「場所」「仲間」と回答する方が多い <p>【費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 57.6%の方がスポーツ活動のための費用を支出しており、平均額は68,224円 <p>【概算消費額】</p> <p>268,177人*50.2%*57.6%*68,224円=52.9億円(成人人口)</p> <p>※ スポーツ実施率が1%増加するごとに1億円増</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性よりも男性の方が、スポーツに費用をかける傾向がある <p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の現状について、プラスの評価をした方も多いものの、「まだまだ整備が足りない」と回答した方が最も多い 特に中山間地域や就業世代における評価が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ランニング人口が多いことから、いわきサンシャインマラソン開催は、市民のスポーツ活動に大きく寄与 スポーツをする場が限られる中山間地域や働いている方・子育て世代に対応した工夫が必要 スポーツサークルに係る全体的な情報提供の仕組みがない 特にチームスポーツにおいて、小中高でのスポ少部活動後に継続する方が少なく、競技スポーツ振興のすそ野が狭い スポーツに関連する消費活動を、可能な限り市内で循環させることが望ましい 市公共施設等総合管理計画において、施設総量の削減(概ね△10%)が掲げられている中、単なる施設の整備はハードルが高い 学校施設・公民館施設・公園施設も含めた有効活用・利用促進を図っていく必要がある
「みる」	<p>【好きな競技等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「マラソン・駅伝」「高校野球」「ラグビー」「プロ野球」など、テレビで放映される機会が多いスポーツの観戦率が高いほか、高齢者層の観戦率が高い 応援しているチームとしては、「プロ野球チーム」や「Jリーグチーム」の比率が高い 女性よりも男性の方が、何かしらの応援するチームがある傾向が強い <p>【費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 78.0%の方がスポーツ観戦に係る費用を支出しておらず、実際に支出した方の平均額は33,720円となっている 観戦回数は、「1～4回」が最も多く、観戦行為は活発ではない <p>【範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内までしか行かないという方が最も多い 市外での観戦のうち、日帰り圏内での観戦は、若年層で、宿泊圏内での観戦は中高年層で比率が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に人気の高いスポーツは、本市への誘致に際し、地元の費用負担が高まる可能性が高い イベント誘致・運営にあたっては、地元競技団体の協力が不可欠であるほか、諸手続等をワンストップでできる体制が求められる 市民のスポーツ施設利用を制限してしまう可能性がある 「市外から人を呼び込む」視点に立った場合の資源として「いわきFC」「いわき七浜海道」が想定されるが、その他の資源に乏しい 市外からの来訪者を市内で対流させるため、観光事業者と連携した観光商品パッケージ化が必要
「やる」	<ul style="list-style-type: none"> 大部分(83.7%)の方が、スポーツを支える側で活動したことがない 「団体運営」「指導者」については、男性が担っていることが多い(子育て世代においては、女性の方が団体運営に携わっている) 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツ及び競技スポーツの推進を担う指導者を、数多く育成・確保していく必要がある スポーツ団体運営も、特定の方の思いによる部分が大きく、継続的に存続していくための支援が必要 スポーツイベントの誘致・運営にあたり、イベントを下支えする存在が必要